

女(わたし)のからだから何が見える？

優生保護法改悪阻止から 25 年！連続講座 第 7 回

アメリカの女性運動と障害者運動は 選別的中絶をどう考えてきたか？

- マーシャ・サクストンさんを迎えて -

私たちの上には 完璧な赤ん坊を産むべきだという圧力が
とてつもなくのしかかっている。

私たちは 完璧な人間の世界が欲しいのか？

私たちの差異や弱さなどを抑圧することの代償はなんだろう。

もし女性たちが選択の権利を持つのなら

障害のある子供を産む選択もまた その中に入れなければならない。

- 「生まれる子と生まれない子 - 障害者に対する生殖技術の適用」



『試験管の中の女』に上記のような文章を書いていた、マーシャ・サクストンさんが来日し、SOSHIREN の 25 周年の連続講座でお話をうかがえることになりました。マーシャさんは障害を持ったフェミニストで、この本の中で女性の中絶の権利を認めながら、出生前診断を否定する主張を明確に展開しています。

(『試験管の中の女』リタ・アルディッティ他編 ヤンソン由実子訳 共同通信社刊)

マーシャさんはこの主張をどのようにして手に入れたのだろうか？ フェミニストとして、障害を持った女性として、仲間たちにどのように自分の考えを伝え、議論してきたのでしょうか？

これは私たち SOSHIREN がずっと考え続けてきた内容であり、課題です。マーシャさんのお話をじっくり伺いながら、一緒にこのテーマを考えませんか？ 皆さんの、ご参加をお待ちしております！

(上記写真は <http://www.wid.org/> (The World Institute on Disability) より)

日時：2008年11月2日(日)

会場：リーブラ (港区男女平等参画センター)

(JR:田町駅 芝浦口から徒歩 2分/地下鉄 三田線 浅草線 三田駅 A4出口から徒歩 4分)

時間：13:00 ~ 16:00 資料代：1000 円 (通訳付)

事前申し込みは必要ありません。当日、会場にお越しください。

託児やノートテイクを希望される方はご連絡下さい。どのような対応ができるか一緒に考えたいと思います。

主催：リプロ研究会 / SOSHIREN 女(わたし)のからだから

連絡先：東京都新宿区富久町 8-27 ニューライフ新宿東 305 ジョキ内 SOSHIREN 女(わたし)のからだから

TEL/FAX 03-3353-4474 gogo@soshiren.org <http://www.soshiren.org/index.html>



マーシャ・サクストンさん

二分脊椎という障害を持って生まれ、アメリカの障害者運動とフェミニズム運動に関わり続けている女性。現在は自立生活運動の中から誕生した組織- The World Institute on Disability のメンバーとして、研修事業や公共的な政策提言などを行っている。カリフォルニア大学バークレー校では障害学を教えている。

(写真は <http://www.wid.org/> (The World Institute on Disability) より)

連続講座開催前に事前学習会を行います

出生前診断と障害者運動の主張について アメリカで議論されていること - そして、マーシャさんの考えは? -

生命倫理の研究所として知られているヘイスティングセンターの企画として、2年間に渡って行われた議論の報告 (Erik Parens、Adrienne Asch 編『Prenatal Testing and Disability Rights』2000年発行) から、全体のまとめとマーシャさんが書いたものを、SOSHIREN メンバーと翻訳家の青海恵子さんが紹介します。

日 時 : 10月11日(土) 午後2時~5時

場 所 : 文京区民センター 3C会議室

(都営地下鉄三田線「春日駅」、丸の内線・南北線「後樂園駅」すぐ)

資料代 : 1000円

主催 SOSHIREN 女(わたし)のからだから

東京都新宿区富久町8-27 ニューライフ新宿東305 ジョキ内

TEL/FAX 03-3353-4474 gogo@soshiren.org <http://www.soshiren.org/index.html>